

【題材名】	
経済のおおまかなしくみを知り生活に必要なお金を考える	
【題材の位置づけ】	
将来に向けて（経済生活）	
【題材の目標】 ～対象児童・生徒の自立の姿～	
ステージⅠ お金のことで気をつけるべきことを学ぶことができる。 ステージⅡ おおまかな経済のしくみについて学ぶことができる。 ステージⅢ 給料を計画的に使う方法を考える事ことができる。	
【題材の工夫した点・配慮した点】 ～主体的な学びのために～	
<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に取り組めるようにゲーム形式を取り入れる。 ・イメージしやすいように具体物を使う。 ・学習を振り返ることができるようにワークシートを用意する。 	
【題材の指導計画】（5時間目／5時間中）	
時	主な学習活動
1	お金の話し（日本で使われているお金の種類を知ろう） 6/29
2	銀行の仕事といろいろなカードを知ろう 7/4
3	携帯電話と架空請求について学ぼう 7/12
4	アポイントメントセールスについて学ぼう 9/20
5	給料を使う計画を立てよう 9/27 本時
【本時の目標】	
<ul style="list-style-type: none"> ・生活に必要なお金のだいたいの金額を知ることができる。 ・給料を計画的に使う方法を考えることができる。 	

○ 写真

図1 選択提示用フリップ

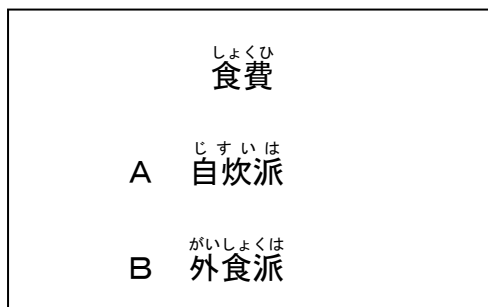
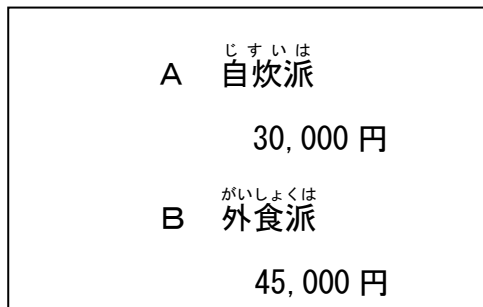


図2 金額提示用フリップ



※A4 用紙に選択肢提示用と金額提示用に分けて用意する。

○ 展開

場所：大和東分教室 2年教室

過程	主な学習活動	支援および指導上の留意点	資料・準備
導入 5分	○はじめのあいさつをする。 ○本時の学習内容を知る。	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢を正して注目させる。 本時の目標と流れを簡潔に説明する。 	
展開 35分	<p>○ミッションゲームをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートと給料袋を受取り給料と給与明細を確認する。 <p>① 選択肢から自分の意見を選ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 貯金の金額を決める。 食費を支払う。 携帯電話使用料を支払う。 お小遣いを決める。 家賃・水道・光熱費を支払う。 <p>② 残高を確認する。</p> <p>③ 互いに残高を発表し合い、違う理由や将来の生活の違いを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 給与明細で天引きされている社会保険料と税金について説明する。 各項目選択肢(図1)、金額(図2)の順で示す。 使い方により残額が違ふことと、緊急時の備えや将来のために貯金する必要性を確認する。 	ワークシート 給料袋 模擬紙幣 給与明細 電卓 選択肢提示用フリップ 金額提示用フリップ
まとめ 8分 2分	<p>○振り返りをする。</p> <p>○感想記入、発表をする。</p> <p>○おわりのあいさつ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生活に必要なだいたいの金額と、お金を計画的に使うことの重要性を確認する。 姿勢を正して注目させる。 	

【考察】

<成果>

- 誰でも関心を持てるテーマであり、生徒の実態に合わせてゲーム形式を取り入れ具体物を使うことで積極的に取り組むことができた。
- ゲームをグループではなく個人で行なったので全員が自分で考えることができた。
- 生活に必要なだいたいの金額を知ることができた。

<課題>

- 生徒間で生活に必要なお金をイメージする力にかなりの差があるので、ゲームを進行するときに個別の援助が必要である。
- STの教員はゲームの進行中に生徒の個別の援助を担当したが、STがお金の回収や銀行役などを担当するとMTの進行がより明確になると思われる。
- 給料を計画的に使う方法については、さらに学習が必要である。

【自立と社会参加に向けて（次のステップ）】

- 自分の使用している携帯電話の料金を調べる。
- お金に関するトラブルについて学ぶ。

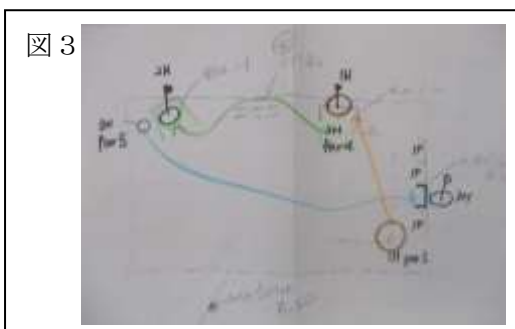
参考文献

今日からできる！障がいのある子のお金トレーニング

鹿野佐代子・前野彩／株式会社翔泳社／2016.7.19.

【題材名】	
フライングディスク	
【題材の位置づけ】	
卒業後の余暇活動につながる種目を体験する。	
【題材の目標】 ～対象児童・生徒の自立の姿～	
ステージⅠ フライングディスクに興味・関心を持つことができる。 ステージⅡ いろいろな投げ方を知り、狙った所へ投げることができる。 ステージⅢ みんなで協力する力やルールを守ってフェアプレイを大切にすることができる。	
【題材の工夫した点・配慮した点】 ～主体的な学びのために～	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動が得意な生徒には、ゲーム性の強い競技「ゴールドドッチ、ドッチビー」を準備する。 ・ 運動が得意でない生徒には、自分のタイミングで落ち着いた状態で行える競技「アキュラシー、ディスクゴルフ」を準備する。 ・ 当たっても痛くないディスクや持ちやすいディスクを準備する。 	
【題材の指導計画】（4時間目／7時間中）	
時	主な学習活動
1	投げ方、取り方を知り、投げて取ってみる。 10/5
2	走って取る。 10/12
3・4	狙って投げる。遠くに投げる。 10/19・20 本時
5・6・7	ドッチビー、ゴールドドッチをする。 10/13・26・27
【本時の目標】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 10回以上連続でディスクを落とさずにパス交換することができる。 ・ 狙った所に投げる、遠くに投げるができる。 	

○ 写真



○ 展開

場所：大和東高校 グラウンド（雨天時：体育館下ピロティ）

過程	主な学習活動	支援および指導上の留意点	資料・準備
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・集合・報告・あいさつ ・前時の確認、本時の説明 ・準備体操 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年毎に集合させる。学年毎に、学級委員に報告させる。 ・整列、姿勢を正して注目させる。 ・体育委員会の生徒に準備運動を行わせ、補足部分を教員で行う。 	ドッチビー（発泡ウレタン）ファストバック、ウルトラスターのディスクを準備
展開 30分	<ul style="list-style-type: none"> ・フライングディスク ① 二人1組で投げる練習を行う。 ② ローテーションして組み合わせを代えて行う。 ③ 学年に分かれて行う。 ・9ターゲット ・遠投（ディスタンス） ・ディスクゴルフ ・片付け 	<ul style="list-style-type: none"> ・硬さの違うディスクを用意して、好きなものを選ばせる。（図1） ・同じ向きで投げるように指示する。 ・ローテーションすることでいつも投げない人で行えるようにする。 ・一人ずつ行わせる。全員が終わったら学年で協力して9枚の的を全部落とすまで行わせる。（図2） ・1回ずつアドバイスをを行い、距離が伸びるように指導を行う。 ・グラウンドの既存の物品を使用して3コースを作成し、教員と一緒にラウンドさせる。（図3） 	9ターゲット ディスクゴルフのコースを作成
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・整理運動 ・本時の確認、次回の確認 ○あいさつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年毎に整列させる。 ・怪我の有無を確認する。 ・結果の発表をする。 	

【考察】

<成果>

- ・誰でも苦手意識なく取り組むことができた。
- ・ディスクゴルフでは既存の物品を利用した設定で無理なく効率的に行うことができた。
- ・ディスタンス（遠投）では、1回ずつディスクの握り方や身体の使いかたなどのアドバイスをを行うことで飛距離を伸ばすことができた。

<課題>

- ・題材の位置づけと題材の目標のステージ設定において課題が出た。興味・関心を持たせていく中でスキルを伸ばすことが大切なのか等である。体育では、様々な能力の生徒がいることを考慮すると、生徒の実態を把握した今回の設定で良いだろうという結論に至った。

【自立と社会参加に向けて（次のステップ）】

- ・卒業後の余暇活動の一つとする。
- ・休み時間や休日にディスク1枚で友だちと投げ合ったりする。

【題材名】	
バスケットボール	
【題材の位置づけ】	
ルールやマナーの大切さを知り、体力の向上を図る。	
【題材の目標】 ～対象児童・生徒の自立の姿～	
<p>ステージⅠ 運動の実践を通して運動の楽しさや喜びを味わうことができる。</p> <p>ステージⅡ 仲間と協力して進んで安全に運動することができる。</p> <p>ステージⅢ ルールやマナーを守り、役割を意識して参加することができる。</p>	
【題材の工夫した点・配慮した点】 ～主体的な学びのために～	
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に応じて2グループに分けて練習やゲームを行うことで、個々の力を発揮する場面を増やした。 ・少人数制のゲームにし、生徒一人ひとりがボールに触れる機会が多くなるようにした。 ・ゲームにおいて「必ずパスを4回つないでからシュートを打つ」というルールを用いることで、他者を意識させるようにした。 	
【題材の指導計画】（4時間目／4時間中）	
時	主な学習活動
1	ドリブル練習・パス演習 5/17
2	ドリブル練習・パス練習・シュート練習 5/24
3	パス練習・シュート練習・少人数ゲーム 5/31
4	シュート練習・少人数ゲーム 6/21 本時
【本時の目標】	
<ul style="list-style-type: none"> ・パスをつなげてシュートを打つことができる。 ・バスケットボールのルールを知り、ゲームに取り組むことができる。 	

○写真

図1



○ 展開

場所：大和南高校 体育館

過程	主な学習活動	支援および指導上の留意点	資料・準備
導入 5分	○はじまりのあいさつをする。 ○本時の流れの説明をする。 ○準備体操をする。 ○グループに分かれる。	・姿勢を正すように促す。 ・体育係を前に出し体操をさせる。 ・STグループとMTグループに分かれるよう促す。	
展開 40分 前半 (15分)	○ゴール下でのシュート練習をする。 ・2～3チームにわけ、ゴール下での30秒間のシュート本数を競う。 ○ランニングシュート練習をする。	・バックボードを使い目印を目標にシュートを打つよう促す。(図1) ・よかった生徒は前に出て発表させる。 ・床にマークをつけ、ゴールの近くでの足の動きが意識できるようにする。	コーン ボール ゼッケン
後半 (25分)	○試合をする。 ・少人数(3～4人)のチームを作る。	・広い空間でのパスをもらいにいく動きや、パスをつないでゴール近くでシュートを打つよう言葉かけをする。 ・ゲームのルールを守るよう言葉かけをする。 ・試合に出ていないチームにパスの回数を数えさせる。または得点係をさせる。	
まとめ 5分	○学年で整列する。 ○整理体操をする。 ○怪我や体調不良の有無の確認をする。 ○おわりのあいさつをする。	・姿勢を正すように促す。 ・体育係を前に出し体操をさせる。	

【考察】

<成果>

- ・ほとんどの生徒が運動の楽しみや喜びを感じながら授業に参加することができていた。また、「パスをつなげる」というテーマを決めて、それぞれが自分の役割だけでなく、相手を意識して取り組むことができた。

<課題>

- ・生徒の実態に差があることから、手順書などの視覚支援が必要だと考える。また、運動やゲームとして楽しむだけでなく、自立と社会参加に向けての目標設定を考えていく必要がある。そのために、中学校・高等学校の学習指導要領のねらいや目的を意識して題材の目標を設定する。

【自立と社会参加に向けて(次のステップ)】

- ・卒業後の余暇を考えた活動に取り組む。
- ・集団の中でそれぞれの役割意識をもって取り組む。

【題材名】	
学習発表会の練習をしよう！	
【題材の位置づけ】	
人への見せ方・聴かせ方を学ぶ（表現の手段を知る）	
【題材の目標】 ～対象児童・生徒の自立の姿～	
ステージⅠ 楽器の扱いに慣れ、活動することができる。 ステージⅡ 演奏の仕方に慣れ、音楽表現を行うことができる。 ステージⅢ 仲間と協調しながら演奏活動を行うことができる。	
【題材の工夫した点・配慮した点】 ～主体的な学びのために～	
<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた得意な楽器に配置し、自分の役割を明確にして通し練習に臨めるようにした。 ・それぞれに応じた色つきの楽譜を準備し、演奏しやすいようにした。 ・譜面台や譜面に番号をつけて、準備物をわかりやすくした。 	
【題材の指導計画】（4時間目／6時間中）	
時	主な学習活動
1	演奏を丁寧にやろう！ 1 9/15
2	演奏を丁寧にやろう！ 2 9/19
3	表現力を身につけよう！ 1 9/22
4	表現力を身につけよう！ 2 9/25 本時
5	予行に向けて練習しよう！ 1 9/26
6	予行に向けて練習しよう！ 2 9/29
【本時の目標】	
<ul style="list-style-type: none"> ・他のパートの音を意識して演奏ができる。 ・強弱のバランスを考えて演奏ができる。 	

○ 写真

図1 色付き楽譜



図2 番号付譜面台



○ 展開

場所： 大和南分教室 多目的室

過程	主な学習活動	自立の姿に向けての指導上の留意点	資料・準備
導入 10分	○合奏の準備をする。 ○はじまりのあいさつをする。 ○本時の流れの説明をする。 幕間での準備、移動の確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢を正すように促す。 配置図を用いてそれぞれの準備・移動の確認をする。(図1) (図2) 	楽譜 12枚 譜面台 11本 配置図 リコーダー 5本 ギター 11本 ドラムセット 1台 ベース 1本 ベースアンプ 1台 キーボード 4台 三線 4本 ハンドベル 1セット 長机
展開 35分	○合奏「前前前世」をする。 ○合唱「海の声」をする。 ○ボディーパーカッション「ROCK TRAP」をする。	<ul style="list-style-type: none"> 指さしやアイコンタクトで入るタイミングを伝える。 楽器の音量を意識するために、電子楽器にはボリュームのところに印をつけておく。 フォルテで歌うところで、声が小さい場合や大きな声で歌うのを忘れていた場合に、「大きな声で」という言葉かけをする。 他のパートの音と合わせて演奏するように入るパートへ指揮で合図を送ったり、パート名を伝えたりする。 	
まとめ 5分	○演奏の振り返りをする。 ○おわりのあいさつをする。 ○片づけをする。	<ul style="list-style-type: none"> 整列をする。 うまくできたことやよかったことを評価する。 	

【考察】

<成果>

- ・目標を生徒に伝えて取り組んだことで、強弱をしっかりとつけることができるようになった。
- ・部分練習をすることで、良くなったところがわかりやすかった。
- ・出す音の大きさを音符の大きさで表示したのがわかりやすく、効果的だった。

<課題>

- ・全体の目標だけでなく、個々の目標が自覚できるよう適宜、振り返りをするすることで、より個人の課題を意識して取り組めるようにするとよい。また、参考となる演奏をしている生徒数人を選んで全員でその演奏を確認してみるのもよい。

【自立と社会参加に向けて（次のステップ）】

- ・発表という場で自己実現の経験を積む。
- ・スキルとして身につけ、余暇・娯楽とする。